

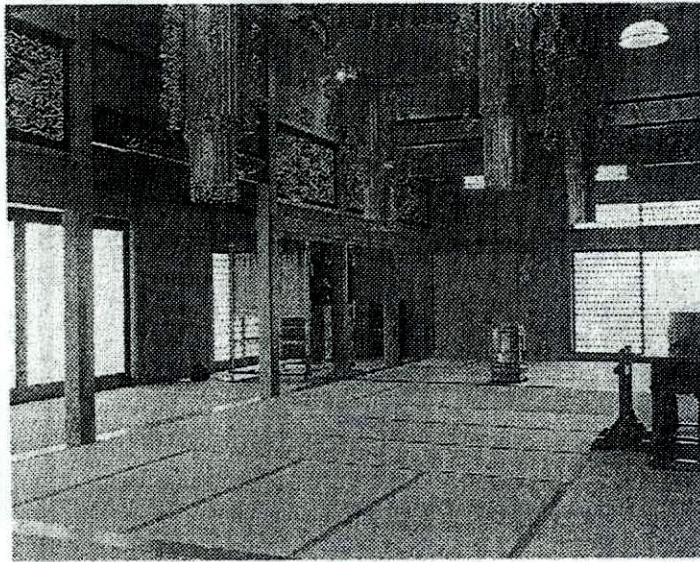
断熱、調質、遮音も

稲刈り後のもみ殻を活用

—もみがらエコボード—

稲刈り後に必ず発生するもみ殻。このもみ殻を接着剤で板材状に固めた「もみがらエコボード」が、インテリア用建材として徐々に注目されてきた。同商品を開発したのは、寿建築工房（秋田県能代市、鈴木寿男社長）で、販売はコバリン（東京都、千葉泰社長）が手掛けている。

もみがらエコボードは、断熱のほか、調質、吸音・遮熱など多くの機能を持つ商品で、1年半ほど前から販売されている。もみ殻と接着剤との攪拌混合時にもみ殻を破壊しないように接着力誘発液が混入されている。接着剤はエポキシ系が使用された。



もみがらエコボードを使った東溪寺の壁

標準サイズは、厚さが15〜50ミリ、縦が2000、横が1000ミリと3000ミリ×3000ミリの2タイプがある。色はライトブラウン、ライトグリーなど18

色。

断熱材よりもインテリア商品として使われるケースが多い。最近では、宮城県古川市の東溪寺の本殿や庫裏の壁などに約300枚が使われた。昨年11月には特許庁長官奨励賞も受賞している。

コバリンの奥澤康文業務本部長は「米どころ秋田ではもみ殻はなじみがあるが、首都圏ではなじみが薄い。今後は環境面でも優しいことを前面に出し、メーカーと一緒に販売に力を入れていきたい」と話す。

生産能力は時間当たり5枚（2000×1000ミリタイプ）程度で、価格は300×300ミリのもの1枚当たり1050円。